

# 私立大の入学定員割れは、 過去最多の155大学、29.1%！ 短大はスリム化・四大化などで、定員割れ41.0%に好転

旺文社 教育情報センター 16年8月

16年度に入学定員割れとなった私立大は、校数では過去最多の155校で、全私立大学に占める割合も前年度より0.9ポイント増の29.1%に達したことが、日本私立学校振興・共済事業団の調べでわかった。

短大では164校、41.0%が入学定員割れだが、改組・定員削減・募集停止等のスリム化、四大化などで、定員割れの校数・割合とも改善の傾向にある。

以下に、同事業団がまとめたデータをもとに、私立大・短大別に入学定員充足率等の概況を探ってみた。

## 私立大

私立大全体の基礎データ

(表1)

区 分	平成16年度	平成15年度	増 減
集 計 校 数	533 校	521 校	12 校
入 学 定 員 A	425,422 人	423,712 人	1,710 人(0.4%)
志 願 者 B	3,067,060 人	3,161,776 人	94,716 人( 3.0%)
志願倍率 B/A	7.21 倍	7.46 倍	0.25 ポイント
受 験 者 C	2,939,142 人	3,034,762 人	95,620 人( 3.2%)
合 格 者 D	954,536 人	932,033 人	22,503 人( 2.4%)
合 格 率 D/C	32.48%	30.71%	1.77 ポイント
入 学 者 E	470,088 人	476,614 人	6,526 人( 1.4%)
歩 留 率 E/D	49.25%	51.14%	1.89 ポイント
入学定員充足率 E/A (加重平均)	110.50%	112.49%	1.99 ポイント
入学定員割れ校数(割合)	155 校(29.1%)	147 校(28.2%)	8 校(0.9 ポイント)

\* 対象は一般選抜、推薦入学(社会人・帰国子女等含む)、AO入試など。

\* 志願者・受験者数は、併願含む延べ数。\* 印は減少を示す。

## 概 況

16年度の私立大の入学定員は42万5,422人で、15年度より1,710人(0.4%)増加した。これは短大からの改組転換(スクラップ&ビルド)や新設大学、新增設学部(学科)等による。私立大の志願者数(一般・推薦・AO入試等含む延べ数。以下、同)は、18歳人口・高卒者数の減少に加え、センター試験の易化(平均点アップ)による“強気出願”(併願の減少)などで、15年度より9万4,716人(3.0%)減少し、306万7,060人となった。志願者数は平成4年度から12年度まで減少した後、3年連続の増加から一転、4年ぶりの減少である。入学者が定員の50%に満たない大学は15年度の17校から2校減って15校となったものの、定員の50%台が6校、60%台が5校、90%台が5校それぞれ増加。(図1参照)入学者数は14年度をピークに減少、16年度は前年度より6,526人(1.4%)減の47万88人。これは受験人口の減少に加え、難関・上位校を中心とした合格者数の絞り込みが一段と強まっている結果とみられる。(以上、表1参照)

全体の入学定員充足率は15年度より1.99ポイント低下し、110.50%だった。

入学定員充足率は11年度から14年度まで113%台をキープしていたが、15年度から再び大きく下降している。(図3参照)

全国12地区の入学定員充足率をみると、北陸(充足率99.98%)と中国・四国(同95.49%)が100%未満で、入学定員割れ地区となっている。

一方、全国平均の充足率(110.50%)を上回っている地区は、南関東(116.22%)、東京(114.58%)、京都・大阪(114.18%)の3地区で、大都市圏に限られている。

なお、各地区の志願倍率(一般・推薦・AO入試など、全ての選抜)も全国平均の7.21倍を超えているのは、東京(10.01倍)、京都・大阪(8.72倍)、近畿(7.98倍)の3地区のみである。定員の充足状況や志願者状況からも、「都市」対「地方」といった2極化の構図が伺える。(図4参照)

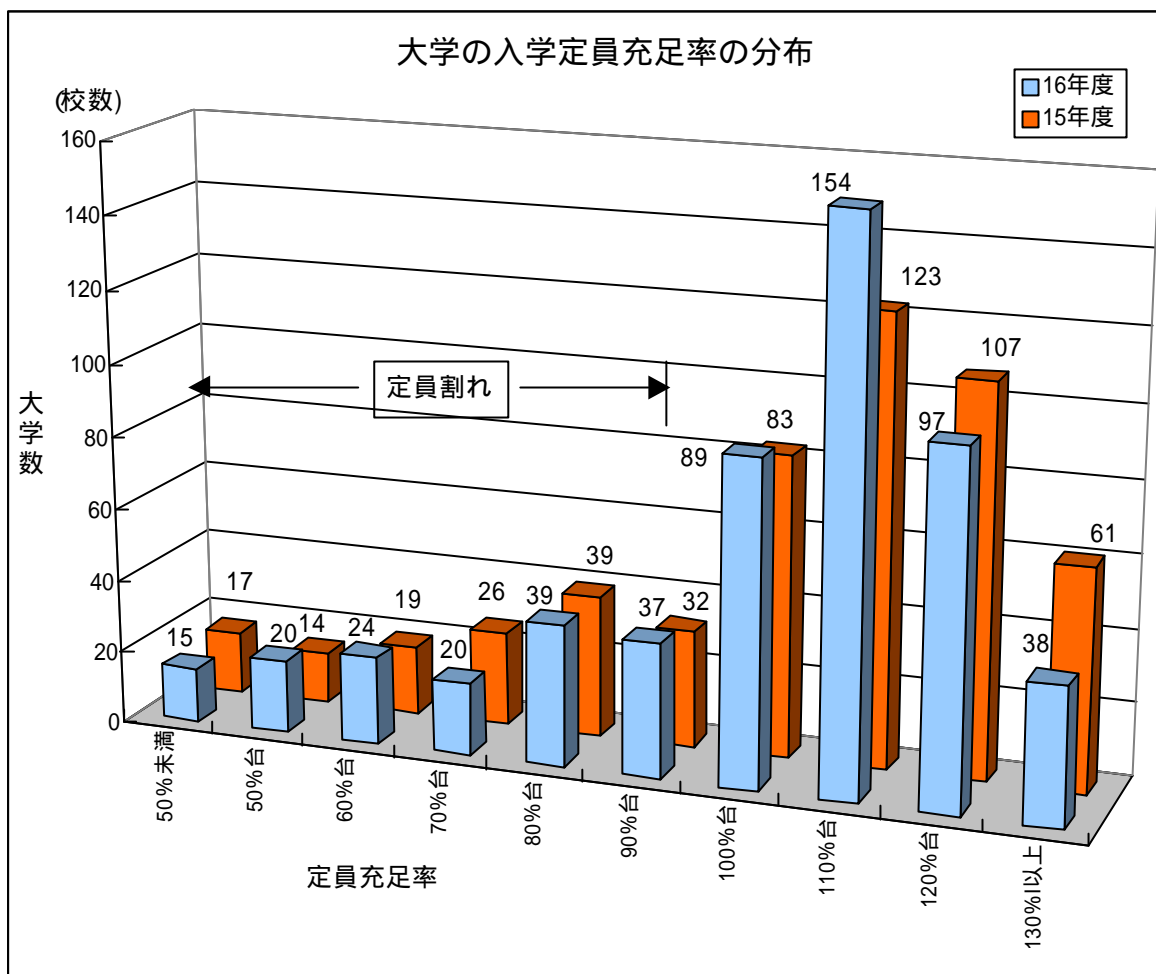
16年度は薬学部と看護・福祉系が大幅に増設され、当該の新設学部では高い志願倍率を示したところも少なくないが、全体としての志願者数の伸びは鈍く、志願倍率、入学定員充足率とも15年度を下回った。

因みに、薬学部の志願倍率は19.30倍(15年度) 15.97倍(16年度)、入学定員充足率119.51%(同) 117.44%(同) / 看護・福祉系の志願倍率は7.05倍(同) 6.36倍(同)、入学定員充足率117.83%(同) 114.57%(同)だった。

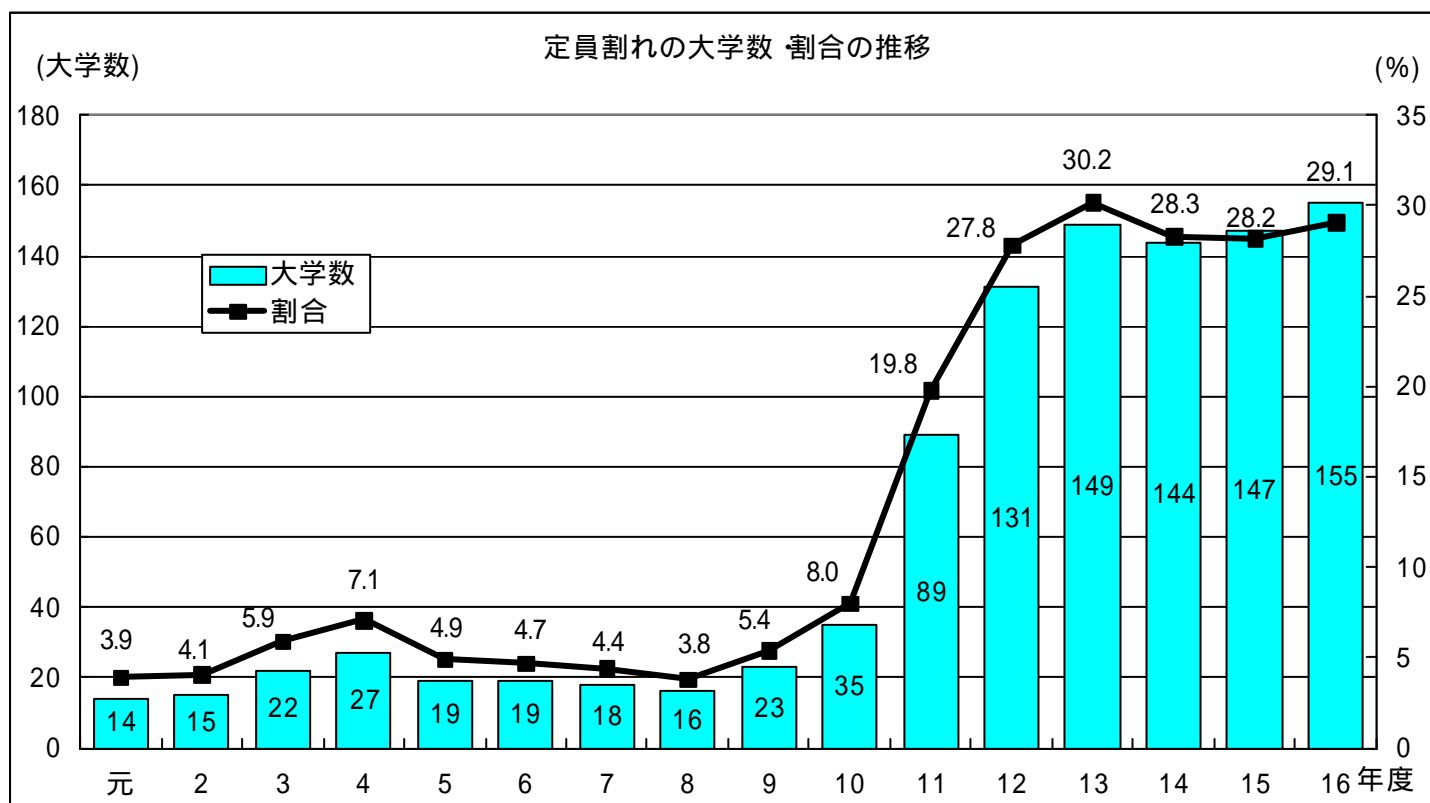
定員割れの大学数・割合が11年度より急激に増加しているのに、全体の充足率がさほど大きな変化を示していないのは、大規模大学・学部による安定した数値によるとみられる。(図2・図3参照)

図3のグラフは加重平均値で示してあるが、加重平均値には大規模の学部・学科の影響が、単純平均値には小規模の学部・学科の影響が現れやすい。12年度を境に、単純平均値が加重平均値を下回っており、その乖離幅も持続されている。つまり、12年度以降は、大規模大学より小規模大学で定員充足率の厳しい状況が続いているといえる。

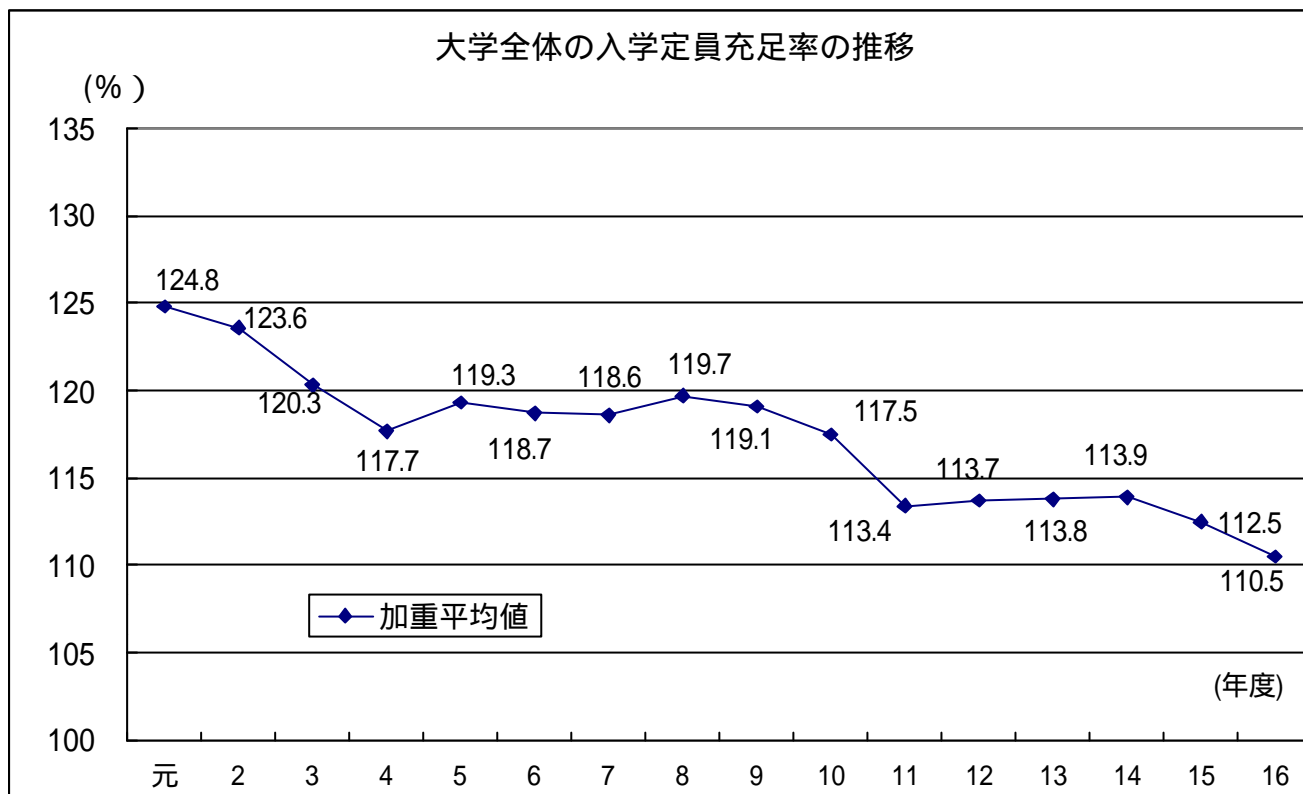
(図1)



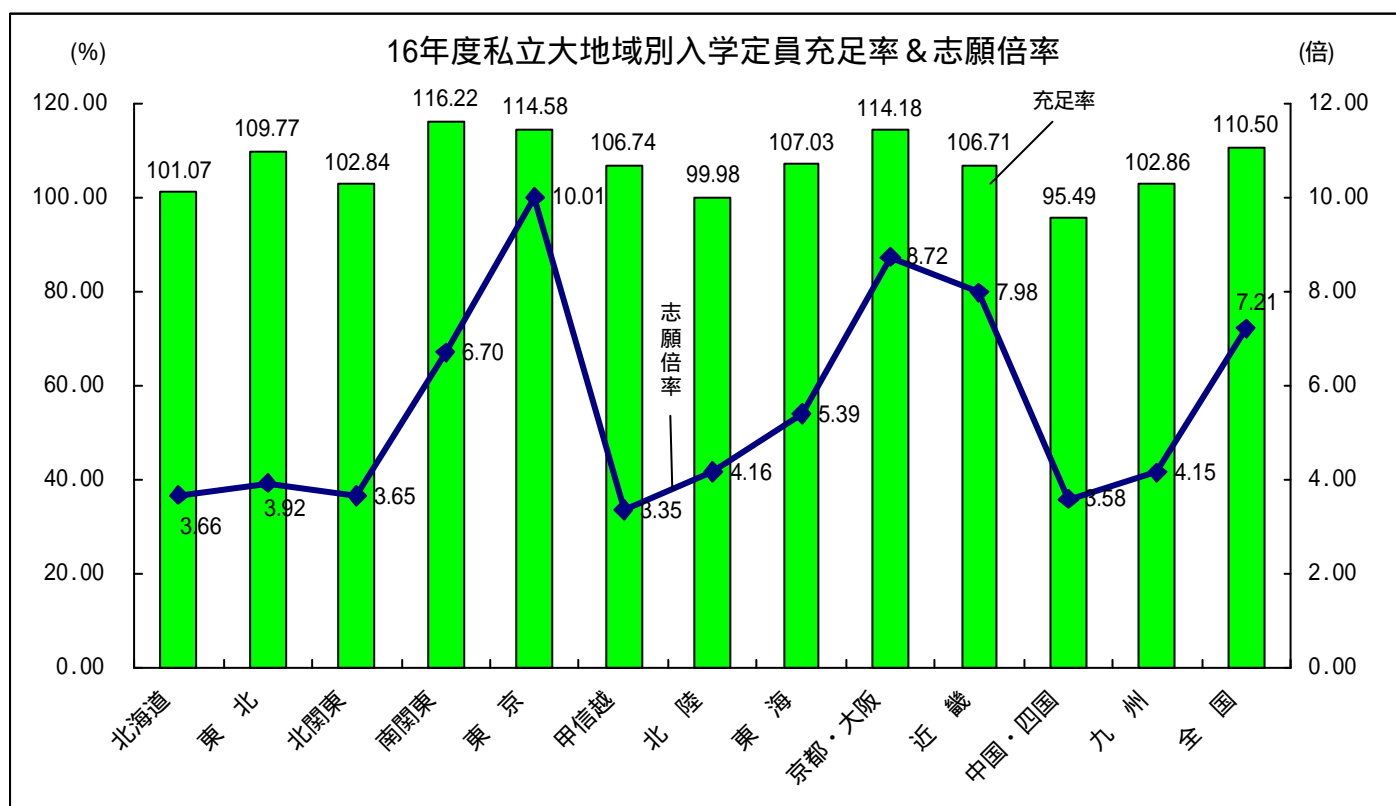
(図2)



(図3)



(図4)



\* 地域区分：北海道 = 北海道 / 東北 = 青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 / 北関東 = 茨城・栃木・群馬 / 南関東 = 埼玉・千葉・神奈川 / 東京 = 東京 / 甲信越 = 新潟・山梨・長野 / 北陸 = 富山・石川・福井 / 東海 = 岐阜・静岡・愛知・三重 / 京都・大阪 = 京都・大阪 / 近畿 = 滋賀・兵庫・奈良・和歌山 / 中国・四国 = 鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知 / 九州 = 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

# 短大

短大全体の基礎データ

(表2)

区 分	平成 16 年度	平成 15 年度	増 減
集 計 校 数	400 校	416 校	16 校
入 学 定 員 A	99,130 人	108,199 人	9,069 人 ( 8.4%)
志 願 者 B	191,270 人	189,384 人	1,886 人 (1.0%)
志願倍率 B/A	1.93 倍	1.75 倍	0.18 ポイント
受 験 者 C	186,560 人	184,162 人	2,398 人 (1.3%)
合 格 者 D	124,814 人	128,399 人	3,585 人 ( 2.8%)
合 格 率 D/C	66.90%	69.72%	2.82 ポイント
入 学 者 E	99,341 人	104,876 人	5,535 人 ( 5.3%)
歩 留 率 E/D	79.59%	81.68%	2.09 ポイント
入学定員充足率 E/A (加重平均)	100.21%	96.93%	3.28 ポイント
入学定員割れ校数(割合)	164 校 ( 41.0%)	190 校(45.7%)	26 校 ( 4.7 ポイント)

\* 対象は一般選抜、推薦入学(社会人・帰国子女等含む)など。

\* 志願者・受験者数は、併願含む延べ数。\* 印は減少を示す。

## 概 況

16年度の入学定員は9万9,130人で、15年度より9,069人(8.4%)減少した。

志願者数(延べ数)は19万1,270人で、15年度より1,886人(1.0%)増加した。志願者数は平成4年度をピークに減少していたが、12年ぶりの増加。これは、16年度からのセンター試験利用入試の導入で、四年制大との併願増が主な要因とみられる。福祉系、国文系、文化教養系、人間生活系などで志願者が増えている。なお、短大志願者を実数でみると、15年度より6,102人(5.5%)減の10万5,532人だった(16年度「学校基本調査」速報より)。受験者数(延べ数)も15年度より2,398人(1.3%)増え、18万6,560人だった。

入学者数は15年度より5,535人(5.3%)減少し、9万9,341人と初めて10万人を割った。入学定員充足率は100.21%と、6年ぶりに100%台を回復した(最低は13年度の91.62%)。定員割れ(入学定員充足率100%未満)の短大数は、15年度の190校(45.7%)から164校(41.0%)と、26校減り4.7ポイント改善した。

志願者・受験者(延べ数)の増加、定員充足率の改善等の背景には、これまで行われてきた四年制大学への改組・転換等による学科の再編や募集停止、センター試験参加等の入試改革などの成果があらわれてきたものとみられる。